

## ■ 法人会員インフォメーションの会

08年6月11日第28回法人会員インフォメーションの会が(株)乃村工藝社 新社屋にて行われました。テーマは「インテリアプランニングとディスプレイデザインは異相?」というもので、2つのテーマによるセミナーと、社屋見学、懇親会という構成で行われました。

最初のテーマは「ディスプレイの視点(リスーピアを題材に)」というもので、乃村工藝社の、高野次郎氏により”理数好きな子供”を育むために企画された「リスーピア」(パナソニック)を題材に”ディスプレイの視点”から、様々な映像を交えて丁寧な講演をして頂きました。「どうしたら子供達に、楽しく興味をもってもらえるか」という視点から、参加体験型の遊びを交えた企画を、最新のディスプレイ技術とともに開発され、参加者の目線で構成された空間は、乃村工藝さんの思想である「伝えるべきメッセージを空間に変換していく」ことを明確に形にされた、分かりやすい高レベルのものでした。来館者を、どう空間に参加させていくか。非常に興味深いものでした。

次のテーマは「新社屋の計画・建設にあたり」と題し、乃村工藝さんの大栄正俊氏により、自社ビル建設までの過程を講演頂きました。随所に環境対応型の配慮があり、エネルギーに対する対策、働く環境に対する対策、周辺環境との融合等これからのオフィスビルの一つの在り方を、明確に表したすばらしいものでした。その後、ご迷惑にも、営業中の社屋を実際に見学させて頂き、「なるほど」と実感できたことは、見学者一同、非常に勉強になったことと思います。



参加者は、92名の多くの方にお申し込み頂き、内、正会員29名(31%)と大変御好評を頂き、当日も70数名の方のご参加を頂きました。

懇親会では榎本修次常務にご挨拶をいただき、益々のJIPATの発展が、この業界全体の発展に繋がるとの、力強いお言葉を頂きました。PM3:00開始、PM7:00終了の4時間にわたる長い会だったにもかかわらず、全く退屈することなく、大勢の方のご参加をいただき、楽しく、面白く、興味深くそしておいしく、貴重な時間を持てたことを、乃村工藝社さん、参加してくださった皆さん、そして尽力してくれたスタッフの皆さん全てに、感謝いたします。ありがとうございました。次回は、8月頃、鹿島建設さんにてインフォメーションの会を企画しております。請ご期待!です。

会員交流委員会委員長 戸矢崎 弘美

## ■ 知ってて知らない、、、

私の子供の頃の夏の夜は、むし暑く寝苦しく、それに蚊帳の中なので、グッショリと汗ばんでいた。そんな時母が団扇で寝付くまで扇いでいてくれたことを思い出す。夏の衣替えをしていて蚊帳が出てきた。あの麻の匂いが突然60年前にタイムスリップさせて、私は突然子供になってしまった。蚊帳の中に家族と一緒に寝ていた。団扇のやさしい風と、蚊帳の中のなにか秘密の空間に母の匂いを思い出した。団扇といえば最近ガス屋さんが出てきてくれたプラスチック製があるくらいであまりお目にかかれない。京都の花街では名入れの団扇を配る風習がある。あの流麗な赤字で描かれた、棗(なつめ)型の品のあるうちわ。この団扇は明治になってつくられるようになったそうで、それ以前は京丸うちわとして京都や大阪、江戸の名所を図柄にしていたようです。今も四国の「丸亀うちわ」「岐阜うちわ」「房州(江戸)うちわ」が健在している。その違いは、京団扇は「挿柄式」で太鼓に柄が差し込んであるもの、丸亀の平柄、江戸の丸柄にはマドと呼ばれるすかしがある。お客様のところで出された団扇で扇ぎながら京団扇ですね、と会話を楽しんでください。

### うちわの産地

丸たけ柄うちわ



宮と呼ばれるすまきが

江戸うちわ  
関東大震災で日本橋から館山に移り現在が房州うちわとも  
とばれている。



ゆかたのおびにさせるよう  
長い柄の扇

平柄うちわ



丸亀で作られる

京うちわ  
(みやこうちわ)



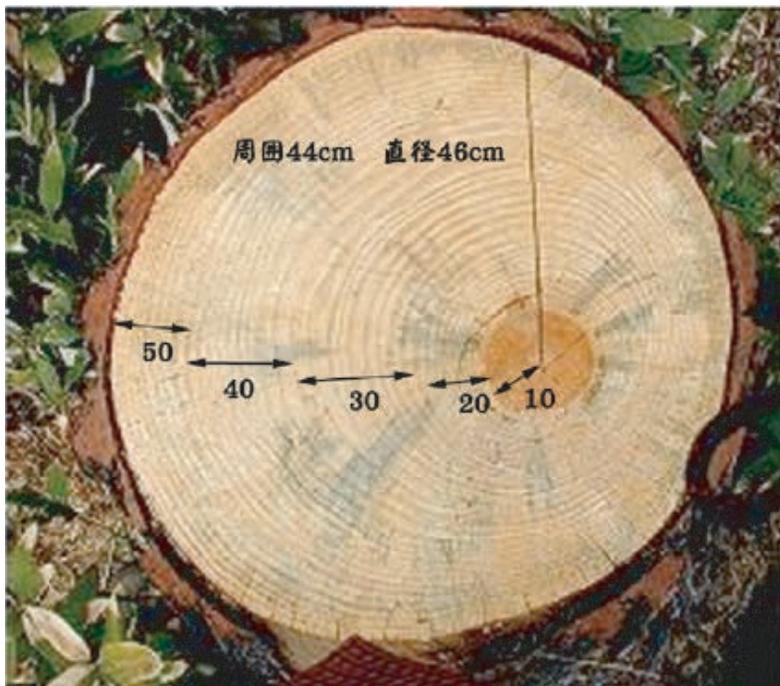
柄がさしてある

深草うちわ



京都でつくられているが、  
昔は丸亀で製作されている。

## ■ 日本には木が不足している



日本には木材が不足していて外国から輸入していて現地では木材の不良伐採で問題になっているといわれているが、実は外国の安い材木におされ採算があわないので使われていなかった。我が国で戦後植林され花粉症の代表である杉がいま50年を過ぎ間伐の時期に来ているが、戦後植林をしたとき44万人いた人手が現在は5万人で危機的状態である。最近の研究で木は35年過ぎるとCO2の吸収の量が極端に少なくなることがわかってきた。また日当たりが悪いと成長が遅くなることも判明している。年輪の写真を見て欲しい(松)30年~40年が一番成長している。年輪の「はるめ」が広いことで証明できる。

40年を過ぎた木は間伐したほうが、残った木が大きく強く育ちCO2の吸収がよくなるそうだ。京都議定書で日本は6%のCO2の削減が義務つけられているが、その内森林からは3.8%が認められているので、林野庁ではなにがなんでも、間伐をしたいが、所有者が赤字になるので協力が得られない。杉は材が柔らかいので天井材や落としがけ、柱には使われるが、床やその他にはあまり使われていないのもその原因であろう。

最近、杉や桧の表面に傷がつきにくい塗料「スーパープロテクトシステム」と呼ばれる塗料が開発発売された(大谷塗料(株))。ポリウレタン塗料に細かく粉碎した植物繊維を配合し、その繊維がクッションの役割を果たすため塗装面が弾力性を持つようになり、へこみや傷がつきにくく、また天然素材を使うことでシックハウスなどの心配もなく安全に使うことができる。塗装しない場合とくらべると約8倍、通常の塗料とくらべると4倍の強度が実証されている。表面強度の表示は鉛筆の芯の固さで表現しますが、通常のウレタン仕上げで4B以下だが、この塗料だと2HであるとJISK+566の試験方法に準ずる。杉がオーク材と同等かそれ以上の強さを表現することができるようになり、杉や桧が、床材や家具、そしてテーブルにも使えるようになった。この塗料により、エンドユーザーの予算を考えながら、そしてエコにも貢献できるのではないだろうか。

大谷塗料(株)東京支店の中沢氏に聞く  
情報委員 井上 常雄

## ■ JIPAT会員のみなさまへ

AD COREデザイナー瀬戸 昇責任編集の'08ミラノサローネ・レポートと写真CD発売中。

"デザイナー瀬戸 昇ならではの視点で見た、2008年ミラノサローネちょっぴり辛口レポート。"

世界のインテリア・トレンドをリードするトップ・ブランドの動向と隔年で開かれるキッチン展の傾向。ロシア、ドバイなどイタリア家具メーカーのデザインにも影響を与える 巨大マーケットの国々事情など、デザイナー瀬戸 昇が、各主要ブランドの担当者に直接インタビュー。現地で見ただけでは手に入らない貴重なニュース満載のレポートです。また、プレスパスを取得して、瀬戸自身が特別撮影した各ブランドのブースとインテリア・ディスプレイの写真は、今年のサローネのトレンドを理解するのに最適と好評を博しています。

### ■ 特別価格

『2008サローネ特別号VOCE』(掲載写真674枚) ¥1,050/送料¥525

特別付録写真データ約1,000枚が焼き込まれたCD ¥1,050/送料¥525

詳細はホームページでご確認下さい。

<http://www.adcore.co.jp/top/top.shtml>

ご希望の方は、お気軽にAD CORE各営業担当か、広報担当:樋口まで

### 2008 milano report : デザイナー瀬戸 昇

撮影・取材・編集の詳細レポート



A-4変形 (222×297mm/60ページ)

※取材90カ所/掲載写真数約674枚

定価: 1,050円

VOCE



デザイナー瀬戸 昇: 撮影写真CD-ROM (142×126mm)  
写真: 約1,000枚+動画  
※VOCE増刊号未掲載写真収載

定価: 2,100円

CD



## ■ 水を制するものは世界を制する



高瀬船



近年、いや、ほんの1~2年前から、このように言われ始めている。世界に目を向けるとインドに源をもつインダス河もパキスタンで本流と合体して大河になるが最後のアラビア海にはそそがれていない。途中で水が消えてしまっている。6月に配布されたユニセフからの手紙にはエリトリア（アフリカ）では気温が摂氏50度で、あらゆる水分がたちまち蒸発してしまうとありました。

中国も水不足でチベットからタンラン山脈を越え水を引く計画があるそうだ。チベット高原には何百という湖があり水にはことかかないようで、中国がチベットを手放さないのもわかるような気がする。我が国は江戸時代、水に苦勞をして玉川上水を完成させたのが1654年であった。それまで神田上水と赤坂溜池の水を飲料水にしてきたが人口が爆発的に増えるにしたいが、水不足が深刻になり、これを解消するため多摩川羽村に堰を設けて、多摩川の水を四谷大木戸まで43キロを開渠で通し、そこから地下にもぐらせ暗渠で江戸城および市中に送水した。なんと42キロが地下送水である。その年に利根川の付け替え工事が完成している。当時は3代将軍家光の時代で参勤交代があり年貢は米で支払われていた。また江戸の諸藩の留守居役達は、物資不足の江戸で日用品を調達するのが艱難なので、自国の藩から生活用品を運ぶことになる。そこで船を利用した、が江戸湾の入り口が難所で通れない。そこで利根川に目をつけた。現利根川は、当時は常陸川といい、本流の利根川は現江戸川でデズニール協に流れていた。それを関宿（せきやど・野田市近く）で赤堀川を開削して利根川の本流を赤堀川を通し、常陸川に流入、銚子口から太平洋につなげた。これにより利根川から江戸は水害から守られ、東北諸藩の産物の江戸廻船は危険な房総沖を回らなく、銚子口から川舟に乗せかえ関宿を回り松戸を通り行徳から江戸湾に抜けるルートが完成した。当時の船は帆をかけて川を逆流していた。利根川のように広いところは風を受けやすいが、江戸から関宿に向かう帰りの便が大変で、記録によると松戸から（ここに関所があった。場所は矢切の渡しのような〈金町松戸関所〉）関宿まで3日もかかったことがあるそうだ。諸藩は船を持っていて水戸藩はたえず10艘前後を就航させていて、500艘前後が絶えず往復していたようです。成田山にお参りするのこのルートをつかい木下（きおろし）や安食（あじき）で下船した。風がよければ、上り、下りにも夜立ち便があり、朝には目的地についたそうです。野田の醤油や銚子の醤油が上方（大阪）のものより安く手に入るのでこの船便を利用したと記録にありました。（松戸市立博物館編 江戸川社会史参考）

## ■ 会員交流委員会、JIPATゴルフ交流会からのお知らせ

6月7日（土）JIPATゴルフ交流会が紫カントリークラブあやめコースにて初参加6名を含む計36名の参加で開催されました。  
優勝：株式会社トミタの富田互正氏。  
準優勝：株式会社ミダスの岩瀬雅路氏  
第3位：株式会社イービーシーセラミックスの丹治孝氏  
今回は正会員さんの参加が8名とやや少なめでしたが次回開催を12月13日（土）と早々に決定いたしましたので正会員の皆様も多数ご参加頂けますようお願い申し上げます。

JIPATゴルフ交流会幹事一同

JIPATゴルフ交流会からのご案内を希望される方は、メールアドレスの登録をお願い致します。開催のご案内/各種ご連絡をE-mailを利用し幹事から直接お知らせすることと致しました。メールアドレスの登録はE-mailにて受け付けますので件名（タイトル）に「ゴルフ交流会 アドレス登録」と明記してJIPAT事務局に送信をお願いいたします。なお、登録の締切は特に設けておりませんが、早めの登録をお願い致します。（E-mailがどうも苦手だという方はFAX No.を登録してください）

JIPAT事務局 E-mail : office@jipat.gr.jp

注1) 法人会員各様は複数名登録頂いても結構です。☑

注2) JIPAT会員以外の方の登録は原則お断り致します。☒

## ■ 編集後記



08年上期から情報委員会の委員長が替わりました。新しい委員長は、須藤慶一（1967年生まれ）氏。スチルソリッド一級建築士事務所主宰。建築設計・インテリアデザインのほか都市・建築・インテリアの撮影をしています。ある時、撮影した写真をプレゼントしていたら、建築関係の方々から”ウチのも撮ってほしい”とお願いされることとなり、写真で演出する方法もプレゼンしています。社名スチルソリッドは【Still】と【Solid】の造語で「静かに佇んでいる建築」の意味。

新委員長はナイーブな感性の持ち主で次のコンテンツの書き込みからも窺い知ることができます。《人の心を打つ・感性を刺激する建築物は長い年月をかけ風格を増していきます・・・その間、建築物は人に手を入れてもらい愛されながら、人と共に記憶・思い出を紡いでいきます。

私は建築・インテリアの設計と写真の撮影を通してただ一片の記憶を標す存在でありたいと思っています。》また、トレードショーの展示ブースの書き込みには、《あらかじめ定められた期間のみに存在し、やがて姿を消してしまう被写体。見て触れられるのはその期間の来場者に限られ、そのときに感じられた記憶を他の人に伝えるのは難しいことです。それでいながらも、記憶のストックや共有するためのアーカイブに乏しく、やむなくソレは消失されるがままになっている。それを記憶に留めるために、見る人との共有化を図っていこうと思う》と。

副委員長長羽沢昌子氏は4年間委員長を勤めて頂きました。今後も情報委員会の発展のためよきアドバイスをお願いします。



編集長 井上 常雄